

「大阪府域におけるサシバの生息状況調査」

グループ名： サシバプロジェクト in 大阪

代表者： 小室巧・大西敏一

調査期間： 2017年4月から2018年3月

調査地域： 大阪北部(能勢町、豊能町、箕面市、茨木市、高槻市など)、大阪南部(河内長野市、富田林市、和泉市、千早赤坂村)、その他地域では情報収集。

サシバの個体数は全国的に減っており、環境省によって絶滅が危惧される種に登録されています。近畿地方における主な繁殖環境は、爬虫類・両生類が多い水田と草地、隣接する明るい里山の林ですが、大阪府内においてもサシバが生息する環境が開発や耕作放棄、スギ・ヒノキの人工針葉樹林の成長などによって損なわれ、サシバの個体数が減少していることは鳥関係者の実感です。大阪府下におけるサシバの繁殖調査は1977年から1980年に小島幸彦氏による大阪南部(河内長野市近郊)における詳細になされましたが、最近のサシバ情報は環境アセスメントによるものや個人的な局所的情報はあつものの、府下全体にわたる生息実態は把握されていません。このサシバ調査は大阪府下におけるサシバの生息状況を明らかにする目的で、里地・里山の自然環境保全に早くから取り組んで来た(公社)大阪自然環境保全協会の会員と、日本野鳥の会大阪支部の会員が協力して行なうもので、2015年から予備調査を始めおり、2017年には密度の高い調査を計画しています。

予備調査はまず、2015年4月から6月のサシバの繁殖期に、大阪北部のサシバ生息の可能性が高い地域を中心に予備調査を行ないました。大阪北部ではわずかな飛翔個体が目撃されただけで、サシバ個体数の激減を実感しましたが、南大阪地域からは数カ所でサシバの目撃が伝えられ、また繁殖の可能性が高い地域が報告されました。生駒山地を主とする中部大阪には過去には少数の繁殖が確認されていましたが、現在は生息が途絶えたようだとの報告がありました。

2016年は4月から7月に大阪北部(能勢町、豊能町、箕面市、茨木市、高槻市など)と南部(河内長野市、富田林市、和泉市、千早赤坂村など)で調査を行ない、各数カ所でサシバの生息が確認されました。サシバの繁殖環境はこれまでは、爬虫類・両生類が多い水田とそれに隣接する明るい林の里山と言われてきましたが、里山の奥の森林環境にも生息していることが確認されたました(図1.)。



図1. サシバの生息環境

2016年の調査結果からサシバの繁殖状況をランク分けし、市町村別にその確認地点数を地図に示しました（図2.）。

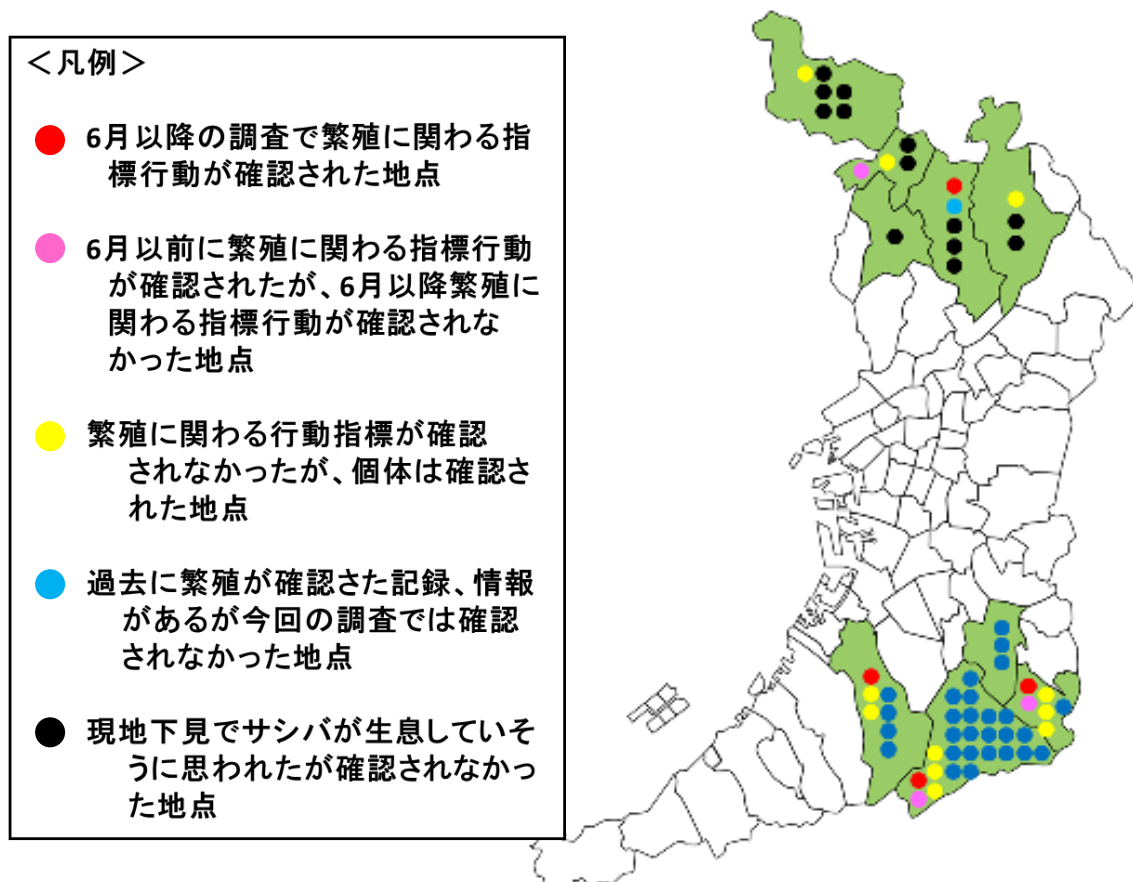


図2. 各市町村におけるサシバの繁殖状況のランク別確認地点数

今年度の調査ではサシバの繁殖の可能性が高いと考えられたものの、確定するに至らなかった地点が多くありました。そこで、2017年度は1977年～1980年に、小島氏による詳細なサシバの繁殖地分布調査が行われた河内長野市周辺の約50か所の調査地点を重点的に再調査します。調査期間は4月～7月、1地点最低2時間以上、時期を変えて2日以上を多くの人員をかけて一斉に調査し、40年前と比較します。また、2年間の（予備）調査の結果から生息の可能性の高い地域をより密度高く調査し、サシバが大阪府内にどの程度生息・繁殖しているかを明らかにする予定です。

また、特に大阪北部でサシバが大きく減っている原因のひとつに、水田などの耕作地のあぜ道に設けた多数のイノシシ・シカ除けネットや電気柵が採餌の妨げになっている可能性が高いことが挙げられています。このような環境要因について検証するためにもより多くのデータを集める必要があります。さらにノスリやオオタカ、ハチクマなどの猛禽類の生息状況も合わせて調査対象とし、多方面からサシバの生息環境の評価を行う予定です。

なお、調査経費の主な物は、交通費、ガソリン代、地図購入費、資料印刷費、トランシーバー購入費などです。